

# 令和6年度(2024年度) グループホームネバーランド 事業報告書

## 1. 施設の概要

### (1)介護保険法

- ・認知症対応型共同生活介護
- ・介護予防認知症対応型共同生活介護 利用定員 各ユニット9名(合計18名)

## 2. 施設管理など

### (1)職員配置

2025年3月31日現在 (単位:人)

(各ユニット)	基準数	現員
管理者	1	1
計画作成担当者	1	1
介護職員(日中)	日中利用者3人に対して1名配置	3人以上
介護職員(夜間)	1	1

(単位:人)

### (2)運営推進会議

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
参加者	4/10	6/12	8/21	10/23	12月度	2/19
利用者	0	0	0	0	感染症対策の為、書面報告	0
利用者家族	0	0	0	0		0
介護保険課職員	0	0	0	0		0
地域包括支援センター職員	1	1	1	1		1
自治会長	1	1	1	1		1
民生委員	1	1	1	1		1
地域住民(知見を有する)	0	0	0	0		0
事業所職員	2	2	2	1		1

### (3)消防訓練

日付	訓練内容
令和6年度1回目	10月31日
令和6年度2回目	03月19日

## 3.利用の状況(1) 日課

7:00	起床・洗顔・着替え等	14:00	ラジオ体操・レクリエーション・入浴
7:20	朝食準備	15:00	喫茶・おやつ
7:45	朝食	15:30	リハビリ訓練(歩行、階段昇降等)
8:50	ラジオ体操・体温、血圧測定	17:00	夕食準備・口腔体操
10:00	レクリエーション・余暇活動・入浴	17:30	夕食
11:30	昼食準備・口腔体操	19:00	着替え
12:00	昼食	20:00	消灯

## (2) 年齢別・性別入居者数 (単位:人)

年 齢	男 性	女 性	合 計
70～74歳	0	0	0
75～79歳	0	1	1
80～84歳	2	0	2
85～89歳	2	4	6
90～94歳	2	5	7
95歳以上	0	2	2
合 計	6	12	18

2025年3月31日現在

## (3) 平均年齢及び最高・最低年齢 (単位:歳)

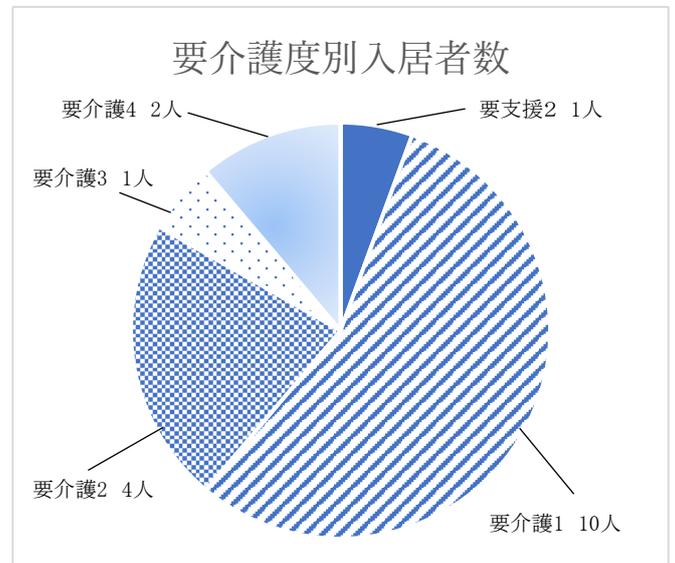
	男 性	女 性	全 体
平均年齢	85.8	90.5	88.1
最高年齢	92	101	101
最低年齢	79	75	75

2024年3月31日現在

## (4) 要介護度別入居者数

要介護度	全体	割合
要支援2	1	5.6%
要介護1	10	55.8%
要介護2	4	22%
要介護3	1	5.6%
要介護4	2	11%
要介護5	0	0%
合 計	18	100%

2025年3月31日現在



## 4. 認知症高齢者の日常生活自立度 2025年3月31日現在

(単位:人)

ランク	判定基準	合計
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	0
II a	家庭外で、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られても、誰かが注意していれば自立できる。	2
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	16
III a	日中を中心として、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	0
III b	夜間を中心として、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	0
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	0
M	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する。	0
合 計		18

## 5.行事及び内容

### ・施設内行事他

日付	行事
04月16日	ブルーチェ作り
04月23日	喫茶外出(福崎明日香)
04月27日	ベビーカステラ作り
05月17日	テイクアウト (ココ壱番屋)
05月19日	たこ焼き作り
05月23日	誕生日会
06月16日	誕生日会
06月22日	水ようかん作り
07月07日	七夕会
07月08日	テイクアウト (お好み焼き偶)
07月21日	瑞岡神社夏祭り
07月31日	ケーキ作り
08月27日	スイカ割り
08月28日	かき氷作り
09月08日	フルーツポンチ作り

日付	行事
09月12日	敬老会
10月10日	花火大会
10月12日	屋台見学
10月13日	おはぎ作り
11月19日	たこ焼き作り
11月25日	ゆず湯
11月26日	フラダンス見学
11月24日	フルーツポンチ作り
12月11日	誕生日会
12月20日	クリスマス会
01月23日	ホットケーキ作り
02月02日	節分行事
02月04日	甘酒デザート作り
03月16日	誕生日会
03月30日	テイクアウト (菓子処手毬)

※毎月2回ハンドマッサージのボランティア来所  
(1月～3月は感染症対策の為休止)

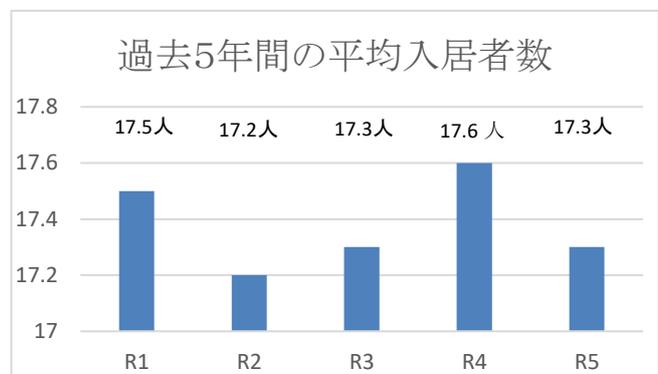
## 6. 目標達成率

平均入居者数	目標	結果
	17.8名/日	17.5名/日

達成率  
98.3%

### ・過去5年間の平均入居者数 (単位:人)

R1	17.5
R2	17.2
R3	17.3
R4	17.6
R5	17.3



## 7. 実績結果に対する考察

2024年度の1日平均利用者数の実績は、17.5名と目標(17.8名)より0.3名少ない結果となった。入院件数が6件(硬膜下血腫が1件、症候性てんかん発作が1件、多発性脳梗塞が1件、心不全が1件、慢性腎不全が1件、誤嚥性肺炎が1件)であり、平均入院日数が13.6日と早期に退院調整を行うことが出来た。ただ、急なご逝去が1名、当法人内の従来型特別養護老人ホームとユニット型特別養護老人ホームへの異動が2名あり、稼働率の低下に繋がった。

### ※2024年度 退居者内訳

- ・従来型特別養護老人ホームへ異動 (1名) ユニット型特別養護老人ホームへ異動 (1名)
- ・ご逝去 (1名) ・病院にて看取り対応(1名)

※空床期間…平均 26.5 日 (2023 年度空床期間…平均 30.2 日)

## ○健康面について

訪問看護ステーションとの連携により、利用者の状態変化について早期に対応を行うことが出来た。また体調不良時には家族の協力のもと、早期に受診を行うことによって、体調の悪化を未然に防ぐことができた。今後とも訪問看護師、主治医、家族との連携を密に行い、利用者の健康維持に努めていく。新たに入所された方に関してはADL(Activity of Daily Life:日常生活動作、以降ADLとする)能力が高い方が多く、日々の運動等を積極的に行うことにより、現在の能力を維持出来るように努める。

## ○生活面、人材育成に関して

昨年度に引き続き、状況を見ながら少しずつ外出行事の実施や地域行事への参加を行うことが出来た。また、昨年度に引き続きテイクアウトを定期的実施し、食の楽しみを提供出来るように努めた。日々の生活においては、施設周辺の散歩を行い、気分転換を行いながら運動量の確保に努めた結果、ADL能力の低下を予防することが出来た。ただ、冬季や夏季は外出が難しく、運動力の確保が難しい為、施設内で出来る運動等を増やしていき、今後も日々の生活の中で、色々な楽しみを提供出来るようにしていく。

今年度の利用者の入れ替わりは4名おられたが、比較的状态が安定した方が多く、穏やかに生活を継続していただくことが出来た。ただ、今後は様々な認知症の症状に対応が出来るように、毎月のカンファレンスにおいて、職員間の情報共有を密に行い、個別サービスの向上に努める。また、認知症について考える会議にて各部署とも情報共有を行い、より良い対応方法について学びを深める。資格取得に関しては、認知症介護実践者研修を1名、認知症対応型サービス計画作成担当者研修を1名受講予定である

## ○収支について

収支については、同法人内への利用者の異動が2名あり、今後とも定期的な異動が見込まれる。部署としては減収であるが、法人全体としては増収に繋がっている為、今後とも家族の意向を伺いながら、従来型特別養護老人ホーム及びユニット型特別養護老人ホームへの案内を継続して行っていく。また、利用者の状態に応じて適宜区分変更を行い、収入の増加に努める。

空床期間については、平均26.5日と昨年度より3.7日短縮することが出来た。今後も空床期間3週間を目標とし、退所前より段階的に準備を行うことにより、空床期間の減少に努める。

## ○待機者に関して

待機者については、入れ替わりがあるものの、8名と昨年度と同じ人数であった。すぐの入居は考えておられない方もおられるが、状況が大きく変わる場合はある為、今後も3か月に1回現在の状況や入居の希望について確認を行う必要がある。また、地域包括支援センターが行うブロック研修に参加し、ケアマネジャーとの繋がりを拓げることにより、新たな利用者の紹介に繋げる。

## ○家族との連携に関して

面会については感染症等の関係があり、現在は再度扉越しでの面会を実施している。日々の様子については、利用者家族にソーシャル・ネットワーキング・サービス(LINE:ライン)に登録していただき行事の写真や動画を送信した。入居者18名中15名の家族がLINEに登録済みであり、登録されていない家族については毎月の様子を手紙にて伝えている。家族には、とても喜んでいただけているので、今後も継続して実施していく。また、定期的な訪問時(物品持参時)に日々の様子を伝えるとともに、電話やショートメールにて都度連絡を行っている。グループホームの特色として、今後とも家族と入居者との絆を大切にし、少しでも不安感や寂しさを軽減できるように支援を継続していく。